

(3) 人間形成と思想教育部会

教育部会名	人間形成と思想
部会長名／作成者名	柳澤 邦昭
概 要 (2 ページ)	
(1) 組織・運営について 令和 6(2024)年度の本教育部会は、大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 7 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究科 21 名、保健学研究科 1 名の計 34 名から構成され、教育部会長 1 名（人文学研究科）、幹事 2 名（国際文化学研究科、人間発達環境学研究科）が世話役になり、運営された。 (2) 実施状況について ・開講科目、カリキュラムなど 基礎教養科目として「哲学」(4)、「倫理学」(4)、「論理学」(8)、「心理学 A」(6)、「心理学 B」(8)、「教育学 A」(6)、「教育学 B」(9) の 1 単位科目 7 科目を計 45 コマ、総合教養科目として「科学技術と倫理」(4)、「教育と人間形成」(3) の 1 単位科目 2 科目を計 7 コマ、専門教養基礎科目として「心と行動」という 2 単位科目 1 科目を計 1 コマ分、全体で 10 科目（うち 1 単位科目 9 科目・2 単位科目 1 科目）53 コマが開講された。「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と国際文化学研究科の教員、及び 3 人の非常勤講師により開講された。また、「心理学 A」、「心理学 B」、「心と行動」は人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境科学研究科、保健学研究科の教員、及び 1 人の非常勤講師により、「教育学 A」、「教育学 B」、「教育と人間形成」は大学教育推進機構と人間発達環境科学研究科の教員により行なわれた。 ・今年度の工夫・改善点 今年度は、教育活動がコロナ禍以前のスタイルに回帰するだけでなく、それを踏まえた新しい授業運営のあり方が模索された一年となった。特に対面授業の価値が再確認され、学生の学習意欲や集中度にも好影響が見られた。対面授業が通常化したことで、教員・学生間や学生同士の直接的な交流機会が増加し、教育効果が高まったと考えられる。一方、コロナ禍で定着したオンライン授業や BEEF+による授業支援システムの活用は引き続き盛んであり、授業資料の配布、課題提出、授業外での質疑応答など、効率的な授業運営の基盤となった。また、すべての授業を原則として遠隔で行う形式も見られ、時間や場所にとらわれない柔軟な学びの形を追求する試みとして、今後の継続的な実施も期待される。ただし、授業形式の多様化による学生の混乱や負担増には引き続き注意が必要である。特にオンライン環境へのアクセス格差や通信環境の個人差が学習機会に影響を及ぼす可能性も考えられ、これらについては慎重な検討と適切なサポート体制の整備が求められる。今後も対面授業の利点を活かしつつ、オンラインツールの利便性を効果的に組み合わせた授業方法の工夫・改善を継続的に検討することが重要である。 ・現状と評価 「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学 A・心理学 B）、③教育学領域（教育学 A・教育学 B）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。また、総合教養科目として「科学技術と倫理」、「教育と人間形成」という現代的な問題を扱う科目を提供し、現代的なニーズにも応えるよう配慮した科目配置となっている。つまり、「人間形成と思想」教育部会は期待される教育内容をカバーする科目を提供している。また、多くの科目が 100 人以上の講義 となっており、抽選となる科目も少	

なくない事などから、幅広い学部 of 学生にとり重要な教養科目として認識されているものと考えられる。

（３）課題について

今年度、「人間形成と思想」教育部会では、授業形態の多様化がさらに進展し、新たな課題が浮き彫りとなった。特に、コロナ禍で蓄積されたオンライン授業のノウハウが引き続き活用され、対面授業を基本としつつも、遠隔・ハイブリッド型授業も選択肢の一つとなっている。このような授業の多様化は教育活動の柔軟性を高める反面、運営上の課題も生じやすい。たとえば、遠隔・ハイブリッド型授業は、大教室のような 100 名を超える規模の授業において教育の質を高める上で一定の効果を発揮しているが、依然として教員・学生間のコミュニケーションが十分に確保されないという従来からの問題は根強く残っている。自己評価・自己点検シートから、BEEF+をはじめとするオンラインツールの利用によって、資料配布、小課題提出、質問や感想の収集などの運営面では効率化が進んでいることが確認できるものの、ツールを介したやり取りが形式的になりがちであり、学生との質の高い対話や交流が損なわれる可能性も考えられる。また、オンライン環境を介した多様な媒体からの質問や要望が増加し、教員の業務負担が煩雑化する問題も生じやすい。特に、体調不良や個人的事情により欠席した学生からの個別対応や時間外の授業補助要請が増加傾向にあり、このような状況への制度的な対応策や運営上のルール作りが課題となっている。加えて、本年度から学生の生成 AI（人工知能）の活用が顕著になり、レポート課題をはじめとする評価活動において新たな対応を迫られている。生成 AI を用いて作成された内容が提出される事例が増加する中で、学生の主体的な思考や学習プロセスが十分に評価されず、教育上の目的が達成できない危険性が生じている。したがって、生成 AI の利便性や可能性を認めつつも、その利用方法や評価基準について検討し、倫理的かつ教育的に適切な指導方法の構築が求められる。

以上のように、大規模授業の運営改善と新たな技術的・教育的課題への対応は引き続き重要な課題であり、これらについて慎重かつ継続的に検討し、具体的な対応策を構築していくことが必要である。

（４）総合所見

全体として「人間形成と思想」教育部会の講義は必要とされる科目をバランスよく提供しているといえる。また、各教員の自己評価点検一覧からも、学生による授業評価は総じて高く、提供される科目の質的側面においても引き続き高い水準が維持されていると言える。一方で、こうした高い水準がしばしば教員個人の多大な努力と負担によって支えられていることを踏まえると、今後は TA などによるサポート体制の整備、対面授業における遠隔ツールの技術的支援、学生の多様化するニーズへの柔軟な対応といった観点からの体制強化が求められる。また、近年利用が拡大している生成 AI の扱いについては、教育的観点からの適切な運用指針の策定も課題といえるだろう。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

開講する科目にふさわしい多様な専門性を持つ教員が担当し、実施体制・運営体制は概ね機能している。基本的な組織構成は大学教育推進機構 3 名、人文学研究科 7 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究科 21 名、保健学研究科 1 名の計 34 名であり、幹事 2 名、代表 1 名を置く体制が整備されている。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的にやっているか（100 字程度）

各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、BEEF+のメッセージ機能やメールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。各クォーターの「授業振り返りアンケート」より学生からの意見を収集・分析し、その意見を反映した取組みを行なっている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

人間形成と思想教育部会では、100 名以上のクラスが多く、大規模クラスにおいて限られた資源の中でいかにインタラクティブな授業を実施するかが課題となっている。対面授業が教育活動の基本として再び定着しつつある状況の中で、これまでに普及してきた遠隔ツールの活用を背景に、各担当教員においては、視聴覚教材の使用、リアクションペーパーやミニレポートの実施およびそれに対するフィードバックなど、学生の参加を促すための取り組みが活発に行われている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るための F D を組織的に実施しているか（100 字程度）

組織的な授業ピアレビューにこれまで参加実績があり、気づきの共有やレポートによるフィードバックを通じて授業改善に活かされている。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

TA・SA が適切に活用されており、従事する学生には授業補助業務に関する助言・指導がなされている。

根拠資料

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

「人間形成と思想」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学 A・心理学 B）、③教育学領域（教育学 A・教育学 B）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。

根拠資料
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

各教員が共通シラバス等に掲げられた授業の目標等に沿った授業を展開している。多くの教員が小テスト、リアクションペーパー等、及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をし、到達目標に沿ったものにする配慮を行っている。

根拠資料
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

共通目標を踏まえたシラバスを各教員が適切に実施している。さらに、教育の目的に照らして、レポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施等を踏まえて到達目標を達成するにふさわしい内容となっている。

根拠資料
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

単位の実質化への配慮として、多くの教員がレポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施、予習・復習課題の導入などを通じて、学生の理解を確実なものにするように講義を行っている。このような工夫により各学生の学習を促し、単位の実質化への配慮がなされている。

根拠資料
シラバス、小テスト、レポート課題

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

教育の目的に照らし、講義・演習・実験・実習などの授業形態の組み合わせやバランスが適切に保たれるよう工夫された教育内容・学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は、基本的に講義形式が中心であり、100 名を超える大教室での授業が多数を占める。このような事情から、演習や実験・実習を取り入れることは容易ではない。こうした制約を補うために、多くの教員が小テストやリアクションペーパーとそれに対する翌週のコメント、簡易なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションなど、さまざまな工夫を講じている。

根拠資料
シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

人間形成と思想教育部会が提供するのには主に基礎教養科目であるが、これらについては同一名称科目のシラバスの授業テーマ・目標を共通なものにしており、授業内容を反映した適切なシラバスが作成、活用されている。総合教養科目・共通専門基礎科目でも、講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。

根拠資料
シラバス

- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されたカリキュラムになっている。たとえば、各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、メールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。また、授業中の配布資料も学生のニーズを満たすものである。

根拠資料
シラバス

- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

いずれの講義においてもオフィスアワーや連絡方法がシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡を取り、配慮を受けることができる状態にある。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に努めている。

根拠資料
シラバス

- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

人間形成と思想教育部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され、それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験などの結果により、周知された基準に即して適切に成績評価、単位認定が実施されている。また、科目単位で成績分布が適正であることも確認されている。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布（教養教育委員会資料）

- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

学生による授業評価における総合評価を見ると、多くの科目で「有益であった」または「どちらかといえば有益であった」との回答が得られており、各科目において一定の学習成果が上がっていると考えられる。また、学生から寄せられたコメントを見ても、講義内容への理解度を含め、おおむね好意的な感想が多く見受けられる。

根拠資料

試験答案、レポート、授業振り返りアンケート結果